



栗原小だより

令和6年度

9月号

〒123-0843 足立区立西新井栄町 2-10-18

<https://www.adachi.ed.jp/adkuha/>

足立区立栗原小学校

校長 田中 泰徳

TEL 3887-6391

天災は忘れた頃に……

校長 田中 泰徳

44日間の長い夏休みが終わり、子どもたちの明るい笑顔と歓声が学校に戻ってきました。今年も大変暑い夏でしたが、健康で充実した夏休みを過ごすことができたでしょうか？7月の夏休み前の集会で子どもたちに、44日間をだらだら過ごすか夏休みが減ってしまうかも？と少しおどかしてみました。子どもたちの過ごし方はどうだったでしょうか。栗原小では今年、夏休みの宿題を例年より少なめにしましたがお気付きになりましたか。子どもたちやご家族の皆さんが宿題に追われず、余裕をもって夏休みを過ごせるように、また受け身の学習ではなく自分に必要な学習に主体的に取り組んでほしいとの考えからです。家族一緒に過ごしたり、自分の興味のあることに没頭したりできる夏休みは人生のうちでそう多くはないと思います。有意義な夏休みであったことを願っています。

さて、9月1日を含むこの1週間は「防災週間」になっています。先月、宮崎県で大地震が発生し、初の南海トラフ地震臨時情報が国から発表されました。かつてから今後30年間に起こる確率は70~80%といわれてきましたが、どこか遠い話で現実問題として捉えられていませんでした。今回の地震は直接の因果関係は薄いという見解もありますが、いよいよいつ起きてもおかしくないという印象が強まりました。

3.11東日本大震災は、私が校長1年目の3月に起きました。午後2時46分、低学年児童の下校を校門で見送っている際中の出来事でした。目の前の電柱が折れるのではないかと思うほど左右に大きくしなり、振り向くと校舎がゆさゆさ揺れているのが見え、ただ事ではないと感じました。とても寒い日でしたが、揺れのすごさに上着を着ずに校舎内から避難してくる児童がほとんどだったので、余震の合間に教職員に恐る恐る上着を取りに行ってもらいました。当時はメール配信などもなく、しばらくすると保護者の方々が自主的に学校に集まり出し、確認できた児童から引き取っていただき、最後の児童が帰宅したのが午後10時過ぎでした。当日は金曜日でしたが、そのまま3日間学校に泊まり込み、避難所運営の手伝いと月曜日からの体制をどうするか、教職員と不安を感じながら検討したことを思い出します。あれから約14年、この時の経験が私の中では災害時の危機管理の原点となり、毎月行う避難訓練はできるだけ現実に即した想定や対応ができるように改善し実施するようになっています。しかし、今年の元日の能登半島地震を含め、ここ数年大きな地震が発生するとその時は緊張感が高まりましたが、身近に被害がないと時間の経過とともに危機意識も薄れ、気が付くと日常の感覚に戻って生活をしていたことを反省しています。南海トラフ地震だけでなく、首都直下型地震も間違いなく近いうちにやってくるといわれています。学校で子どもたちといるとき、自宅にいるとき、出先にいるとき等々、想像力を働かせて事前に準備できることや発生直後の行動シミュレーションを改めて確認していくつもりです。災害時の行動や備えについて、確認がまだのご家庭は、防災週間を機会に改めて確認してみることをお勧めいたします。

令和6年度足立区学力調査の結果について

		2年		3年		4年		5年		6年		全校		
		国語	算数	全体										
通過率	全国平均	73.5	79.4	76.0	75.9	73.9	74.6	76.0	58.5	78.9	67.6	75.7	71.2	73.5
	栗原小	88.1	91.5	93.0	96.5	88.2	88.2	78.1	81.3	83.6	81.8	86.0	87.8	86.9
正答率	全国平均	82.8	84.3	81.5	83.8	66.5	71.3	62.1	61.8	64.2	56.9	71.4	71.6	71.5
	栗原小	87.6	88.6	89.1	92.8	77.3	77.1	67.5	74.2	71.5	70.7	77.7	80.0	78.8

今年度4月に実施した足立区学力調査の結果です。児童の個別結果については、既にお伝えしていますが、全体の状況を再度ご確認のうえ、今後の家庭学習の参考にしていただければ幸いです。